

## 特定事業主行動計画

小 川 町  
小 川 町 議 会  
小川町選挙管理委員会  
小川町教育委員会  
小川町農業委員会

### 第1 総論

- 1 目的 行動計画策定指針に掲げられた基本的視点を踏まえつつ、職員が仕事と子育ての両立を図ることができるよう、職員のニーズに即した次世代育成支援対策を計画的かつ着実に推進するため、本行動計画を策定し、公表することとする。
- 2 計画期間 平成22年4月1日から平成27年3月31日までの5年間
- 3 計画の推進体制
  - (1) 次世代育成支援対策を効果的に推進するため、各部局における人事担当者等を構成員とした行動計画策定・推進委員会を設置する。
  - (2) 次世代育成支援対策に関する管理職や職員に対する研修・講習、情報提供等を実施する。
  - (3) 仕事と子育ての両立等についての相談・情報提供を行う窓口の設置及び当該相談・情報提供等を適切に実施するための担当者の配置を行う。
  - (4) 全ての職員が知りうるように書面の交付や電子メールによる送付など適切な方法で周知するとともに、啓発資料の作成・配布、研修・講習の実施等により、行動計画の内容を周知徹底する。
  - (5) 本計画の実施状況については、各年度ごとに、行動計画策定・推進委員会において把握等をした結果や職員のニーズを踏まえて、その後の対策の実施や計画の見直し等を図る。

### 第2 具体的な内容

- 1 職員の勤務環境に関するもの
  - (1) 妊娠中及び出産後における配慮
    - ① 母性保護及び母性健康管理の観点から設けられている特別休暇等の制度について周知徹底を図る。

(実施；毎年度)

- ② 出産費用の給付等の経済的支援措置について周知徹底を図る。

(実施；毎年度)

- ③ 妊娠中の職員の健康や安全に配慮し、業務分担の見直しを行う。

(実施；毎年度)

- ④ 妊娠中の職員に対しては、本人の希望に応じ、超過勤務を原則として命じないこととする。

(実施；毎年度)

(2) 子供の出産時等における父親の休暇の取得の促進

- ① 父親が子どもの出生時に5日間の休暇を取得できるようにする。

(実施；毎年度)

- ② 父親が妻の産前産後の期間中に、出産に係る子又は上の子（小学校就学前）の養育のため5日間の休暇を取得できるようにする。

(実施；毎年度)

- ③ 子どもの出生時及び当該職員の妻の産前産後の期間中における父親の特別休暇及び年次休暇の取得促進について周知徹底を図る。

(実施；毎年度)

(3) 育児休暇等を取得しやすい環境の整備等

ア 育児休業、育児短時間勤務又は育児のための部分休業の周知

- ① 育児休業等に関する資料を各部局に通知・配布し、制度の周知を図るとともに、特に男性職員の育児休業等の取得促進について周知徹底を図る。

(実施；毎年度)

- ② 育児休業Q&A等を作成し、育児休業の取得手続や経済的な支援等について情報提供を行う。

(実施；毎年度)

- ③ 妊娠を申し出た職員に対し、個別に育児休業等の制度・手続について説明を行う。

(実施；毎年度)

④ 研修等において、育児休業制度等の制度説明を行う。

(実施；毎年度)

イ 育児休業等体験談等に関する情報提供

○ 育児休業等経験者の体験談や育児休業を取得しやすい職場環境作りの取組例をまとめ、職員に情報提供を行う。

(実施時期；平成22年度から)

ウ 育児休業、育児短時間勤務又は育児のための部分休業を取得しやすい雰囲気醸成

① 育児休業等の取得の申出があった場合、事例ごとに当該部署において業務分担の見直しを行う。

(実施；毎年度)

② 幹部会議等の場において、担当部署から定期的に育児休業等の制度の趣旨を徹底させ、職場の意識改革を行う。

(実施；毎年度)

エ 育児休業を取得した職員の円滑な職場復帰の支援

① 育児休業中の職員に対して、休業期間中の広報誌や通達等の送付等を行う。

(実施時期；平成22年度から)

② 職場復帰に際して研修その他の必要な支援を行なう。

(実施時期；平成22年度から)

オ 育児休業に伴う任期付採用及び臨時的任用制度の活用

○ 部内の人員配置等によって、育児休業中の職員の業務を遂行することが困難なときは、任期付採用及び臨時的任用制度の活用による適切な代替要員の確保を図る。

(実施；毎年度)

カ その他

① 早出・遅出勤務又は時差出勤を行っている職場においては、保育園送迎等を行う職員に配慮して勤務時間を割り振る。

(実施；毎年度)

② テレワークの実施に向け、適する職種と対象職員の選定、実施方法・態様等について検討を行う。

(検討時期；平成22年度中)

- ③ (車による通勤が一般的な地域においては、) 育児中の職員のための通勤用駐車場の確保に配慮する。

(実施；毎年度)

- ◎ 以上のような取組を通じて、育児休業等の取得率を、  
男性 10%以上  
女性 90%以上  
とする。

(目標達成年度；平成26年度)

#### (4) 超過勤務の縮減

ア 小学校就学始期に達するまでの子どものいる職員の深夜勤務及び超過勤務の制限の制度の周知

- 小学校就学始期に達するまでの子どものいる職員の深夜勤務及び超過勤務を制限する制度について周知徹底を図る。

(実施；毎年度)

イ 一斉定時退庁日の実施

- ① 定時退庁日を設定し、館内放送及び電子メール等による注意喚起を図るとともに、幹部職員による定時退庁の率先垂範を行う。

(実施；毎年度)

- ② 幹部職員の巡回指導による定時退庁の実施徹底を図る。

(実施；毎年度)

- ③ 定時退庁ができない職員が多い部署を人事当局が把握し、管理職員への指導の徹底を図る。

(実施；毎年度)

ウ 事務の簡素合理化の推進

- ① 各職員に業務処理計画表を作成させ、効率的な事務遂行を図る。

(実施時期；平成22年度から)

- ② 新たに行事等を実施する場合には、目的、効果、必要性等について充分検討の上実施し、併せて、既存の行事等との関係を整理し、代替的に廃止できるものは廃止する。

(実施；毎年度)

- ③ 会議・打合せについては、極力電子メール、電子掲示板を活用する。

(実施；毎年度)

- ④ 定例・恒常的業務に係る事務処理のマニュアル化を図る。

(実施；毎年度)

#### エ 超過勤務の縮減のための意識啓発等

- ① 超過勤務の上限の目安時間（年間360時間）の設定等を内容とする超過勤務縮減のための意識啓発を行なう。

(実施；毎年度)

- ② 部局・課ごとの超過勤務の状況を、人事当局等で把握できるようにし、超過勤務の多い職場の管理職からのヒヤリングを行った上で、注意喚起を行う。

(実施；毎年度)

- ③ 管理職員に対する意識向上のための自己診断チェックリストの作成・配布を行う。

(実施時期；平成22年度から)

- ④ 人事当局は、各部局・課ごとの超過勤務の状況及び超過勤務の特に多い職員の状況を把握して幹部職員に報告し、幹部職員の超過勤務に関する認識の徹底を図る。

(実施；毎年度)

- ⑤ 超過勤務縮減の取組の重要性について、超過勤務縮減キャンペーン週間等の実施を通じて管理職を含む職員への意識啓発を図る。

(実施時期；平成22年度から)

- ⑥ 各部署における超過勤務縮減のための取組事例を収集し、事例集の作成・配布を行う。

(実施時期；平成22年度から)

#### オ その他

- ① 超過勤務の多い職員に対する健康診断の実施等健康面における配慮を充実させる。

(実施時期；平成22年度から)

- ② 以上のような取組を通じて、各職員の1年間の超過勤務時間数につい

て、人事院指針等に定める上限目安時間の360時間の達成に努める。  
(目標達成年度；毎年度)

(5) 休暇の取得の促進

ア 年次休暇の取得の促進

- ① 職員が年間の年次休暇取得目標日数を設定し、その確実な実行を図る。  
(実施時期；平成22年度から)
- ② 幹部会議等の場において、担当部署から、定期的に休暇の取得促進を徹底させ、職場の意識改革を行う。  
(実施；毎年度)
- ③ 管理者に対して、部下の年次休暇の取得状況を把握させ、計画的な年次休暇の取得を指導させる。  
(実施；毎年度)
- ④ 人事当局による取得状況の確認を行い、取得率が低い部署の管理職からヒアリングを行った上で、注意喚起を行う。  
(実施時期；平成22年度から)
- ⑤ 各部署の業務計画を策定・周知することにより、職員の計画的な年次休暇の取得促進を図る。  
(実施時期；平成22年度から)
- ⑥ 各部署において、おおむね四半期毎に休暇計画表を作成し、計画的な年次休暇の取得促進を図る。  
(実施時期；平成22年度から)
- ⑦ 休暇取得促進キャンペーン等を実施し、取得促進の周知を図る。  
(実施時期；平成22年度から)
- ⑧ 安心して職員が年次休暇の取得ができるよう、事務処理において相互応援ができる体制を整備する。  
(実施；毎年度)

イ 連続休暇等の取得の促進

- ① 月・金と休日を組み合わせて年次休暇を取得する「ハッピーマンデー」、  
「ハッピーフライデー」の促進を図る。  
(実施；毎年度)

② 子どもの予防接種実施日や授業参観日における年次休暇の取得促進を図る。

(実施；毎年度)

③ 国民の祝日や夏期休暇とあわせた年次休暇の取得促進を図る。

(実施；毎年度)

④ 勤続10周年等の節目に、年次休暇を利用した1週間以上のメモリアル休暇の取得促進を図る。

(実施時期；平成22年度から)

⑤ 年1回、年次休暇を利用した1週間のリフレッシュ休暇の取得促進を図る。

(実施時期；平成22年度から)

⑥ 職員やその家族の誕生日、結婚記念日等の家族の記念日や子どもの学校行事等、家族とのふれあいのための年次休暇等の取得促進を図る。

(実施時期；平成22年度から)

⑦ ゴールデン・ウィークやお盆期間における公式会議の自粛を行う。

(実施；毎年度)

⑧ 以上のような取組を通じて、職員1人当たりの年次休暇の取得を対前年度比で10%増加させる。

(実施時期；平成22年度から)

#### ウ 子どもの看護のための特別休暇の取得の促進

○ 子どもの看護のための特別休暇を周知するとともに、その取得を希望する職員に対して、100%取得できる雰囲気醸成を図る。

(実施；毎年度)

#### (6) 職場優先の環境や固定的な性別役割分担意識等の是正のための取組

① 「パートナーシップの日」を設け、職場優先の環境や固定的な性別役割分担意識等の是正についての情報提供や意識啓発を行う。

(実施時期；平成22年度から)

② 育児休業経験者を相談員とし、職員への情報提供並びに職員の相談に応じる。

(実施時期；平成22年度から)

- ③ 各年齢層に対して、研修等を通じた意識啓発を行う。  
(実施時期；平成22年度から)
- ④ セクシュアルハラスメント防止のための研修会を開催する。  
(実施；毎年度)

(7) 母子家庭の母等の雇入れの促進等

- 母子家庭の母等の公共的施設における雇入れの促進等  
(実施時期；平成22年度から)

2 その他の次世代育成支援対策に関する事項

(1) 子育てバリアフリー

- ① 外部からの来庁者の多い庁舎において、乳幼児と一緒に安心して利用できるトイレやベビーベットの設置等を計画的に行う。  
(実施時期；平成22年度から)
- ② 施設利用者等の実情を勘案して、授乳室の設置を必要に応じて行う。  
(実施時期；平成22年度から)
- ③ 子どもを連れて人が気兼ねなく来庁できるよう、親切な応接対応等のソフト面でのバリアフリーの取組を推進する。  
(実施；毎年度)

(2) 子ども・子育てに関する地域貢献活動

ア 子ども・子育てに関する地域貢献活動

- 子ども・子育てに関するボランティアリーダーを養成するための講座等を開設する。  
(実施時期；平成22年度から)

イ 子どもの体験活動等の支援

- ① 子ども・子育てに関する活動等の地域貢献活動に関するデータベースを作成、職員の積極的な参加を支援する。  
(実施時期；平成22年度から)
- ② 子どもが参加する地域の活動に敷地や施設を提供する。  
(実施；毎年度)

③ 子どもが参加する学習会等の行事において、職員が専門分野を活かした指導を実施する。

(実施時期；平成22年度から)

④ 要請に基づき小中学校等に職員を派遣し、特別授業等を実施する。

(実施時期；平成22年度から)

ウ 子どもを交通事故から守る活動の実施や支援

① 交通事故予防について綱紀粛正通知による呼びかけを実施する。

(実施；毎年度)

② 職員に対し、交通安全講習会の実施や専門機関等による安全運転に関する研修の受講を支援する。

(実施時期；平成22年度から)

エ 安全で安心して子どもを育てられる環境の整備

○ 子どもを安全な環境で安心して育てることができるよう、地域住民等の自主的な防犯活動や少年非行防止、立ち直り支援の活動等への職員の積極的な参加を支援する。

(実施；毎年度)

(3) 学習機会の提供等による家庭の教育力の向上

○ 職員に対し、家庭における子育てやしつけのヒント集等を活用し、家庭教育に関する講座・講演会等の実施や情報の提供を行う。

(実施時期；平成22年度から)